

② 自然教育園におけるサギ類

渡 邊 昭 廣*

Akihiro Watanabe*

はじめに

自然教育園ではアオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギの4種のサギ類を見ることができます。2013年から2017年の5年間に自然教育園で見られたこれらのサギについてまとめてみました。

サギ類の見られる頻度

2013年, 2014年, 2015年, 2016年, 2017年のサギ類が確認された頻度(日数)を図1にまとめました。(毎年270日前後の観察結果です。)

2013年は4種のサギを見られる頻度は少ない状況でした。2014年はアオサギの確認頻度が非常に多くなりました。2015年～2017年はダイサギ、コサギが見られる頻度が多くなりました。また、アオサギ、ダイサギ、コサギは60日前後の頻度で推移しています。

ゴイサギを見かける頻度は、毎年他の3種のサギに比べて非常に少なく、ゴイサギは成鳥とホシゴイと呼ばれる幼鳥が見られますが、幼鳥が見られる機会の方が多かったです。

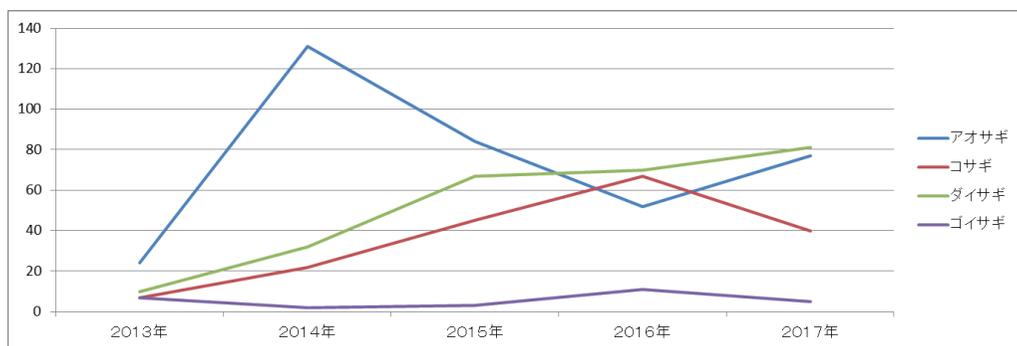


図1 サギ類が確認された各年の頻度(確認された日数)

*東京都品川区, Shinagawa-ku, Tokyo

ア オ サ ギ

自然教育園でのアオサギはほぼ1年を通じて見られ、特に4月～6月によく見られました。アオサギは日本で一番大きなサギで、上面は青味がかかった灰色をしています。

ザリガニ、スジエビ、時にはカナヘビを食べている姿を見ることができます。

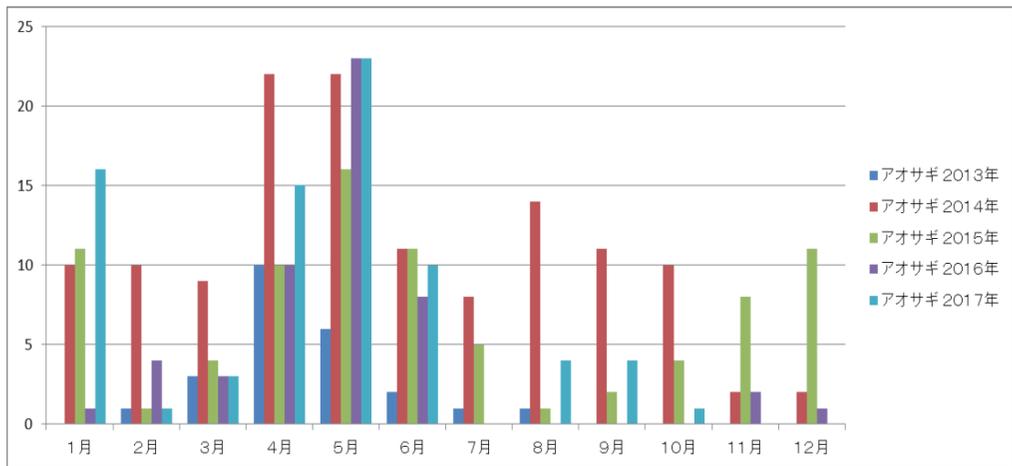


図2 アオサギの月別確認頻度



ザリガニを捕獲したアオサギ (2016年3月19日)



毛が立ち周囲を警戒しているアオサギ (2016年12月8日)



水面を飛行するアオサギ (2017年1月25日)



アオサギの顔のアップ (2017年5月16日)

ダイサギ

自然教育園ではダイサギは3月、4月によく見られる傾向があり、シラサギの中では大きなサギで、クチバシは黄色で、4月、5月には目元が黄緑色の婚姻色となります。ザリガニ、スジエビ、時にはカナヘビを食べている姿が見られます。

コサギの後をついて餌とりしている姿も見られます。

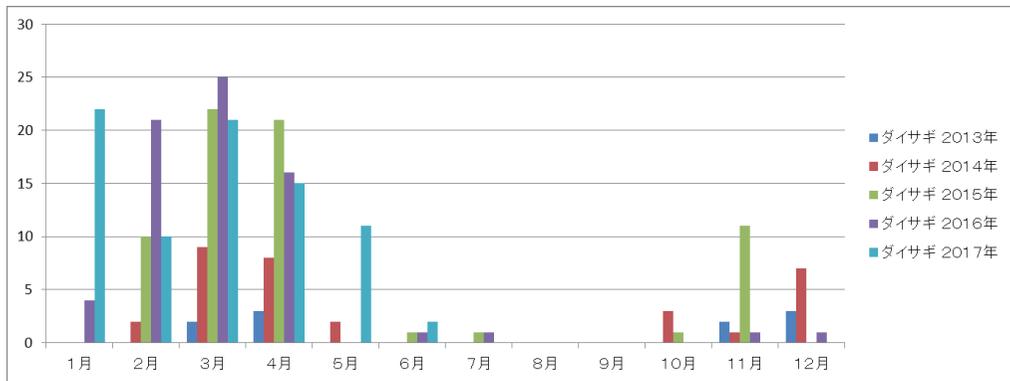


図3 ダイサギの月別確認頻度



コサギの後をついて餌取り (2013年11月23日)



毛づくろいしているダイサギ (2013年11月13日)



ザリガニを捕獲したダイサギ (2015年3月11日)



カナヘビを捕獲したダイサギ、目元が黄緑色の婚姻色 (2017年4月12日)

コ サ ギ

自然教育園では1月, 11月, 12月の冬によく見られます。シラサギとしては小さく, 足の指は黄色でクチバシは黒です。夏の繁殖期になると2本の冠羽が見られます。

水辺を歩きながら, 足を震わせる動作で水中の岩陰等に隠れている魚などを追い出して捕まえる姿がよく見られます。

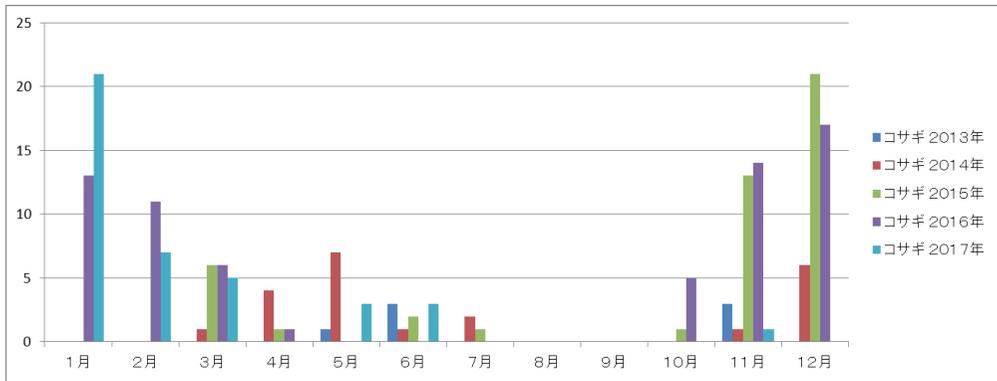


図4 コサギの月別確認頻度



飛び立とうとするコサギ (2014年4月22日)



水面を飛行するコサギ, 冠羽が見られる (2017年3月18日)



コサギのアップ (2016年11月16日)



風の中でたたずむコサギ (2016年12月17日)

ゴ イ サ ギ

自然教育園では時折ゴイサギが見られます。成鳥は2014年と2017年に見られ、他は幼鳥のホシゴイでした。成鳥の上面は紺色を呈し、繁殖期には冠羽があります。幼鳥のホシゴイは褐色の体に白い斑点が見られます。昼間はほぼ一か所にじっとしています。

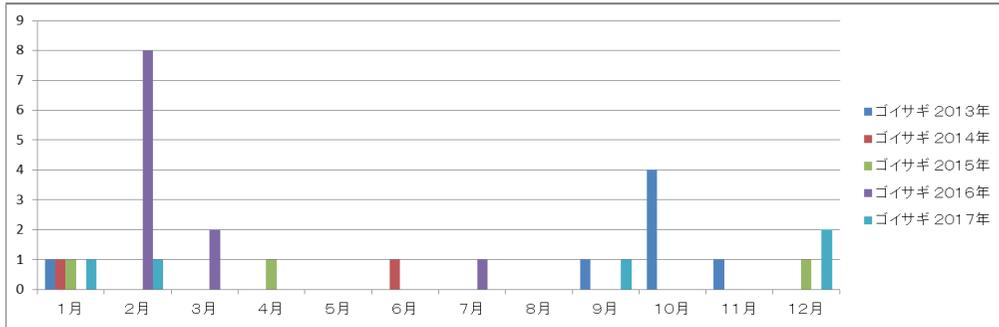


図5 ゴイサギの月別確認頻度



水を飲むホシゴイ (2016年2月11日)



ホシゴイのアップ (2016年2月25日)



冠羽が見られる成鳥のゴイサギ (2017年1月22日)



飛び立とうとするゴイサギ (2017年1月22日)

謝 辞

この撮影記録をまとめるにあたり、ご指導いただいた矢野亮名誉研究員にお礼を申し上げます。